

Euglena Group

2023年12月期第3四半期 決算説明資料

株式会社ユーグレナ
東証プライム市場（証券コード：2931）

2023.11.13

- 【留意点】 当社は、2021年8月26日開催の臨時株主総会における承認決議により、決算期（事業年度の末日）を9月末から12月末に変更致しました。その結果、2021年12月期（第17期）は経過期間として2020年10月から2021年12月までの15ヶ月間の決算期となります。
- 【免責事項】 本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

エグゼクティブサマリー

連結業績

- **売上高は341億円、3Q進捗率76%**
 - 2Qに引き続きバイオ燃料事業の上振れにより売上高は順調に推移
- **調整後EBITDAは19.8億円、通期業績予想を超過**
 - ヘルスケア事業の広告投資の配分と拡大時期の調整により上振れで進捗
- **通期業績予想は売上高450億円、調整後EBITDA18億円で据え置き**
 - 売上高は、ヘルスケア事業拡大で通期予想達成を目指しつつ、バイオ燃料事業のテスト取引次第で上振れも視野
 - 調整後EBITDAは、ヘルスケア事業の広告投資拡大やバイオ燃料事業の実証プラント稼働終了に伴う会計処理の精査を踏まえて据え置き

ヘルスケア事業

- **3Q売上高は2Q比で減少、4Qは増加を見込む**
 - 直販売上高とグループ定期顧客数は広告投資の配分と拡大時期の調整により2Q比で微減
 - その他売上高は広告運用受託が顧客の予算縮小により2Q比で減少
 - 4Qは計画中の広告投資拡大で3Q比増加を見込む
- **今期注力領域で施策展開を継続**
 - 成長ブランドは、からだにユーグレナ定期顧客数が18ヵ月連続で純増。CONCも3Qの定期顧客数が2Q比+61%と好調に推移
 - キューサイは4Qに広告投資拡大を計画、機能性表示食品やC COFFEEも商品ラインアップ拡充による成長を目指す
 - 顧客ロイヤリティの向上、チャネル販売力の強化、コストシナジーの創出に向けても様々な施策を推進

バイオ燃料事業

- **3Qも大口テスト取引により売上高増**
 - 商業化後に向けたサプライチェーン構築の一環で、国内外パートナーと連携してバイオ燃料のテスト取引を継続
 - 2Qに続き3Qも大口テスト取引を実施、累計売上高は17.7億円に拡大（昨対比約10倍）
- **サステオ導入件数が86件に拡大**
 - 航空自衛隊ブルーインパルスや佐川急便の運送トラックにサステオ給油
- **実証フェーズから商業化フェーズへ移行**
 - 実証プラントは2024年1月末で稼働終了を発表、人的・資金的リソースを商業化に向けた取り組みにシフト
 - 2023年中の最終投資決定、2025年中の商業プラント完成に向けて引き続き計画を推進

その他事業（サステナブルアグリテック）

- ペレット堆肥の広域流通促進モデル実証に採択
- 個人向け栽培キットを数量限定で販売

2023年12月期第3四半期決算サマリー

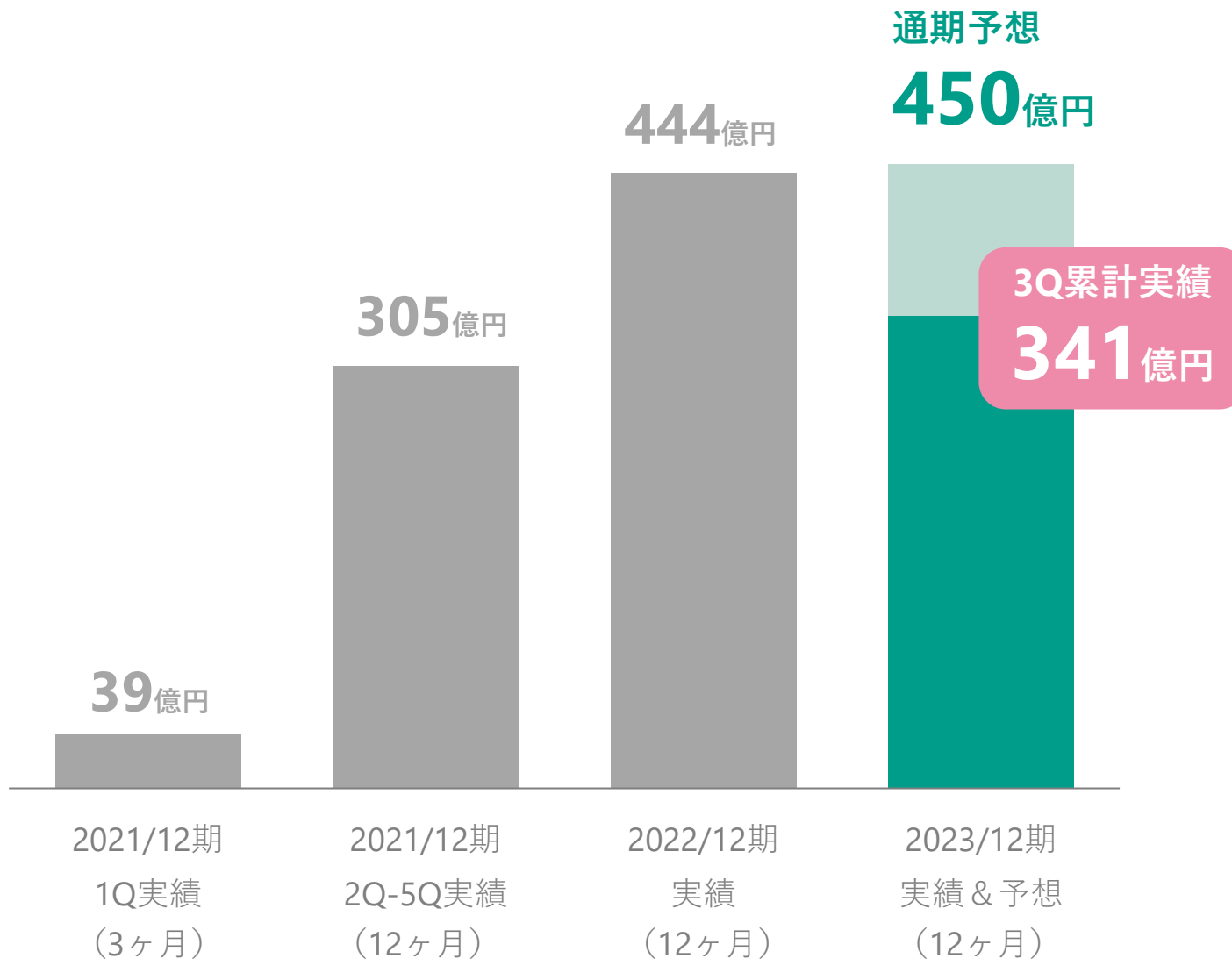
2023年度業績の進捗 - 売上高

2023年度3Q累計売上高

341億円

通期予想比の進捗率76%、
バイオ燃料事業の拡大により
売上高は順調に推移

4Qの広告投資拡大で通期予想を
達成しつつ、バイオ燃料事業の
進捗次第で上振れも視野に



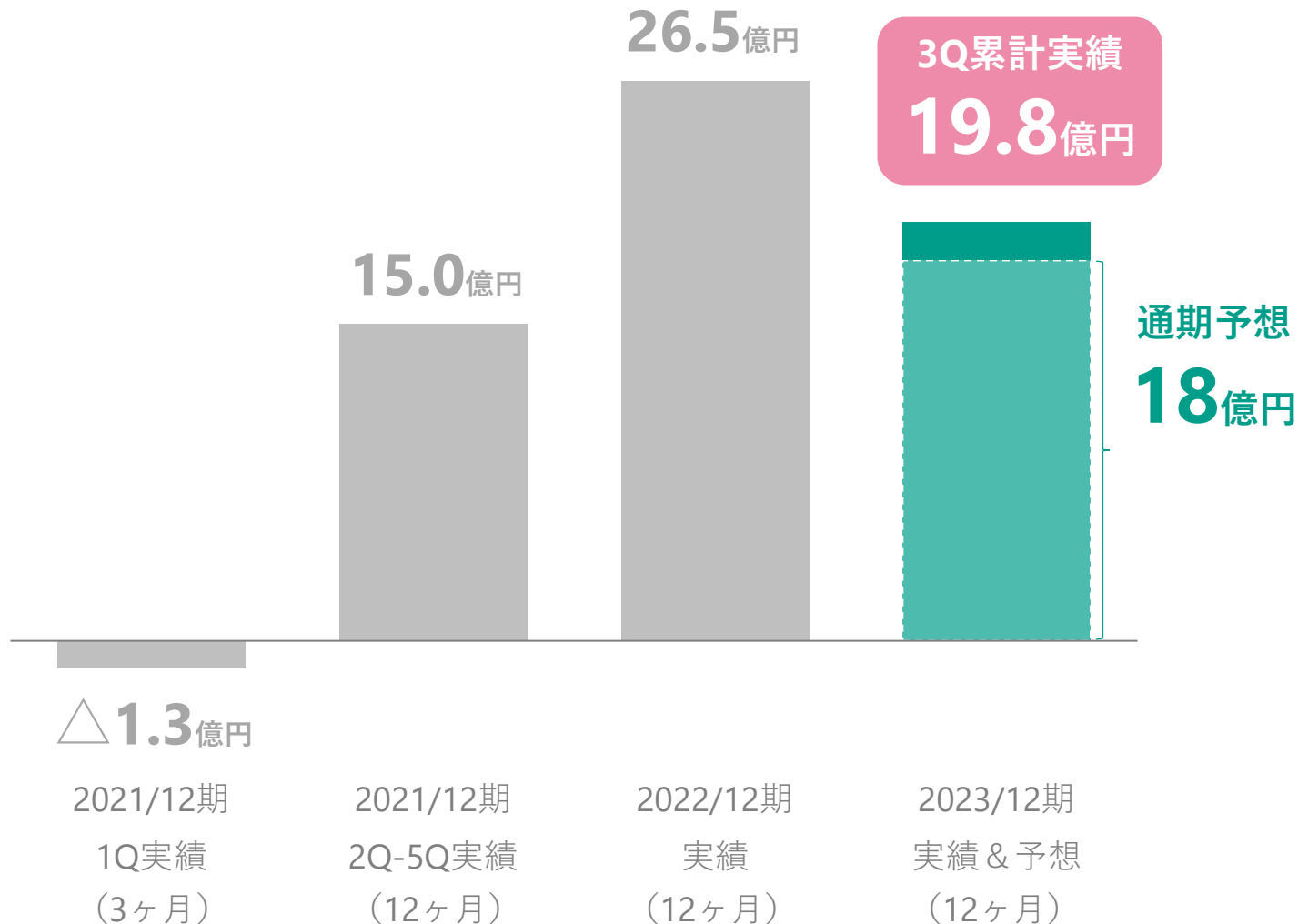
2023年度業績の進捗 - 調整後EBITDA

2023年度3Q累計 調整後EBITDA *1

19.8億円

ヘルスケア事業の広告投資拡大が
配分調整により4Qに遅れたため
通期業績予想を上振れて進捗

4Qの広告投資拡大や実証プラント稼働
終了に伴う会計処理の精査を踏まえ、
通期業績予想は据え置き



2023年度業績の進捗 - 決算サマリー

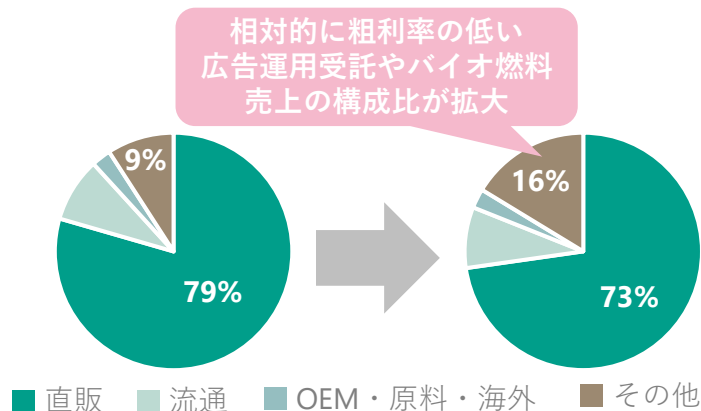
売上高構成の変化により前期実質業績と比して売上総利益率は低下

営業外損益や特別損益の減少で
経常損益以下は
前期実質業績から乖離

売上高構成比

2022年度3Q累計

2023年度3Q累計



(単位：百万円)	2022年度3Q累計実績			2023年度 3Q累計実績	対前年度 同期間比
	開示業績	棚卸資産S/U 費用化影響*1	実質業績	業績	
	①	②	③=①-②	④	
売上高	32,336	—	32,336	34,080	+1,744
売上原価	9,459	+1,474	7,985	10,582	+2,597
売上総利益	22,877	△1,474	24,351	23,498	△853
参考：売上総利益率	70.7%	—	75.3%	69.0%	△6.4%
営業損益	△2,298	△1,474	△824	△959	△136
営業外損益	1,156	—	1,156	162	△994
参考：助成金収入	771	—	771	441	△331
経常損益	△1,142	△1,474	332	△798	△1,130
特別損益	487	—	487	17	△469
親会社株主に帰属する 当期純損益	△873	△551	△322	△1,264	△942
調整後EBITDA*2	2,488	—	2,488	1,980	△509

*1: 棚卸資産ステップアップ (S/U) はキューサイ連結子会社化に伴う会計処理であり、連結時点で棚卸資産を正味売却価額に評価替え (= 6,707百万円を含み益を計上) した上で、商品販売による棚卸資産の払い出しに伴って当該含み益が売上原価として費用化される (2021年12月期中に4,842百万円、2022年12月期中に1,865百万円を費用化)。会計上の一過性の費用であり、キャッシュフローには影響しない。2022年12月期で処理が完了。

*2: 調整後EBITDAは当社独自の財務指標。計算式は、EBITDA(営業利益+のれん償却費及び減価償却費)+助成金収入+株式関連報酬+棚卸資産ステップアップ影響額

注: 上記は百万円未満を四捨五入して記載しているため、決算短信記載値 (百万円未満を切り捨て) とは一致しない場合有り (他のページのチャート、テーブルの記載値も同様)

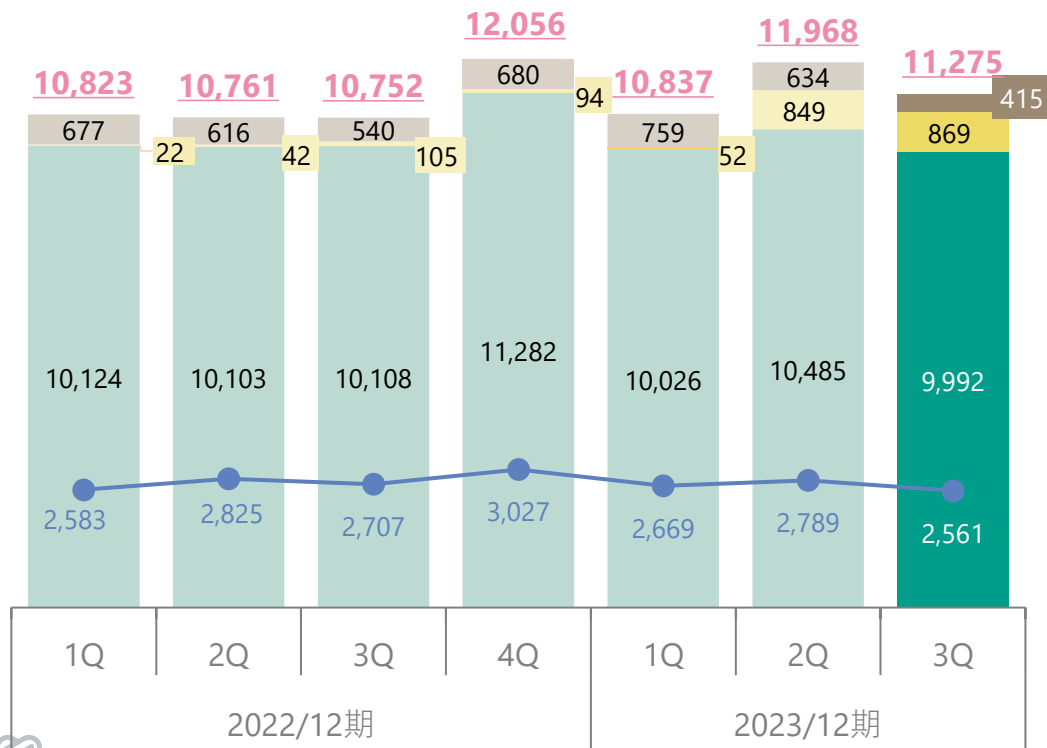
2023年度業績の進捗 - 四半期売上高/調整後EBITDAの内訳

バイオ燃料事業の売上高が大口テスト取引の継続で拡大

ヘルスケア事業の売上高は広告運用受託の縮小等で減少するも、調整後EBITDAは投資拡大の調整により2Q比で増加

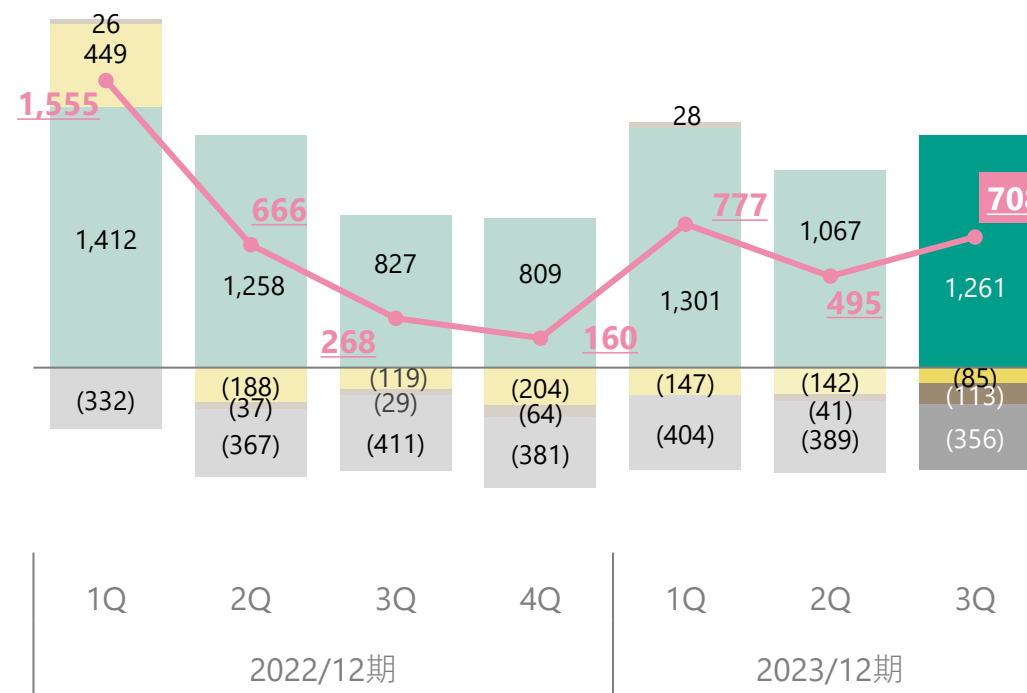
売上高

- ヘルスケア事業
- バイオ燃料事業
- その他事業
- 広告宣伝費*1



調整後EBITDA

- ヘルスケア事業
- バイオ燃料事業
- その他事業
- 調整後EBITDA合計
- 全社費用



*1: 売上推移グラフの広告宣伝費に販促費は含まれていない
注: 単位は百万円。

2023年度通期業績予想

売上高、調整後EBITDAともに通期業績予想は据え置き

売上高はバイオ燃料事業のテスト取引次第で上振れの可能性あり、調整後EBITDAは4Qの広告投資拡大や実証プラント稼働終了に伴う会計処理影響の精査を踏まえて据え置き

単位: 百万円	2023年度 業績予想	2023年度 3Q累計 実績	2023年度 3Q累計 進捗率
売上高	45,000	34,080	76%
調整後 EBITDA*1	1,800	1,980	110%



売上高の見通し

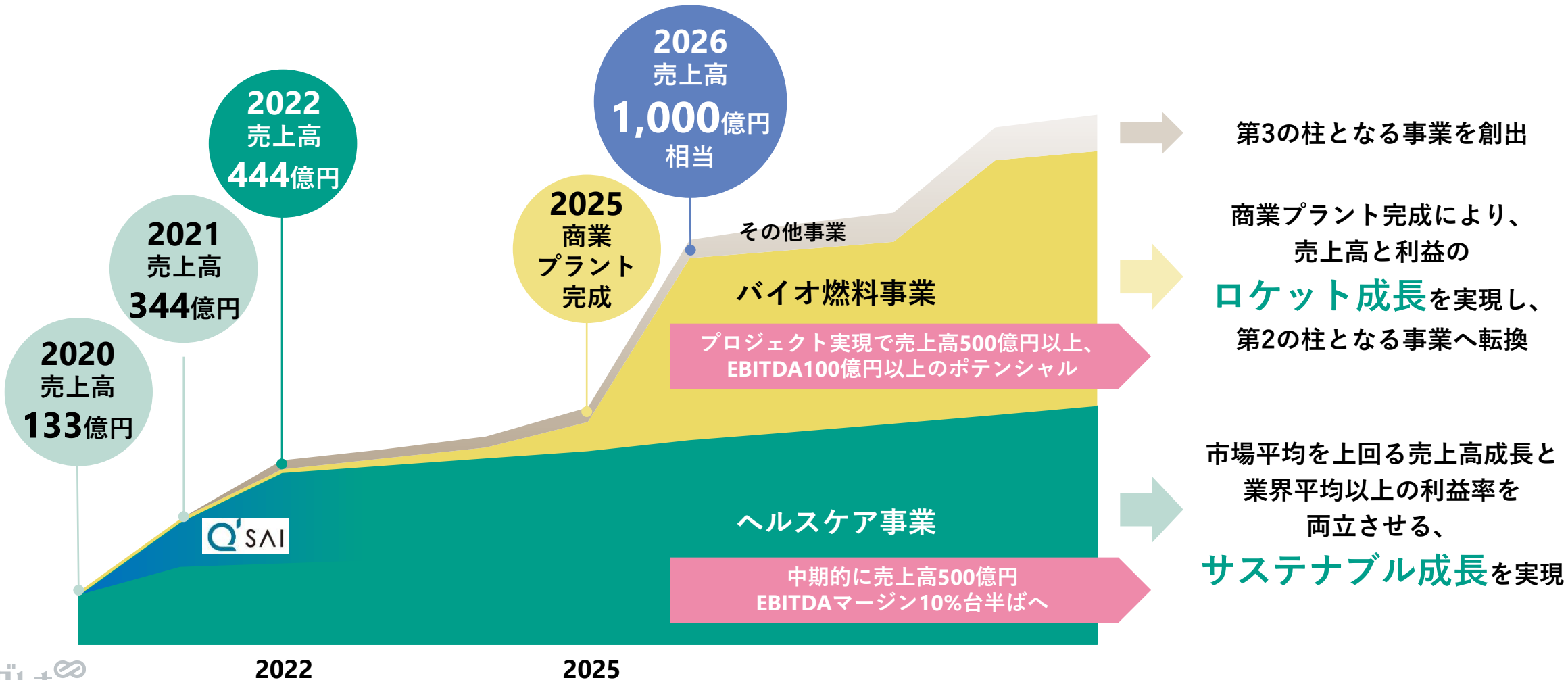
- **ヘルスケア事業：**
投資効率の高いブランドへの投資拡大で3Q比増加を見込む
- **バイオ燃料事業：**
4Qも大口テスト取引が実現した場合、売上高上振れの可能性あり
- **その他事業：**
肥料・養殖事業の季節要因により上期比で減少想定

調整後EBITDAの見通し

- **ヘルスケア事業：**
キューサイ含めた広告投資拡大により4Qは黒字縮小見込み
- **バイオ燃料事業：**
実証プラント稼働終了に伴う会計処理の影響を精査中、赤字幅拡大の可能性あり
- **その他事業・全社費用：**
赤字幅は3Q比でその他事業は横ばい、全社費用は微減見込み

中長期的な成長イメージ - 3つの成長の柱による収益基盤の拡大と強化

ヘルスケア事業の「サステナブル成長」とバイオ燃料事業の「ロケット成長」により、売上高と利益の基盤を拡充しつつ、その他事業で新たな収益の柱の創出を目指す



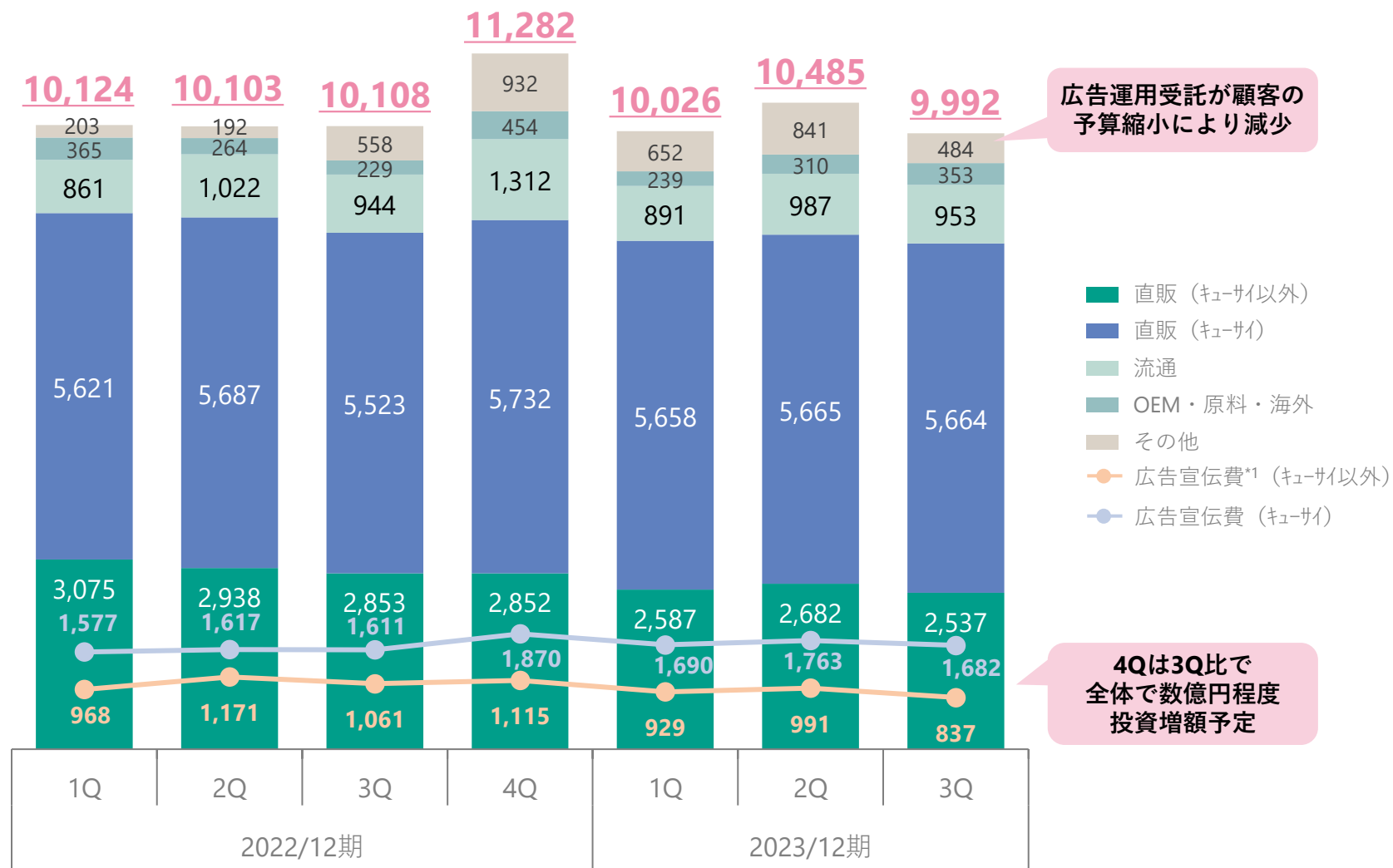
ヘルスケア事業

業績トレンド - チャネル別売上高

キューサイ以外の直販は
広告投資の配分と拡大時期の
調整により2Q比で減少

その他は広告運用受託が
顧客の予算縮小により2Q比減少

4Qはグループ全体での
広告投資拡大により
反転を見込む



広告運用受託が顧客の
予算縮小により減少

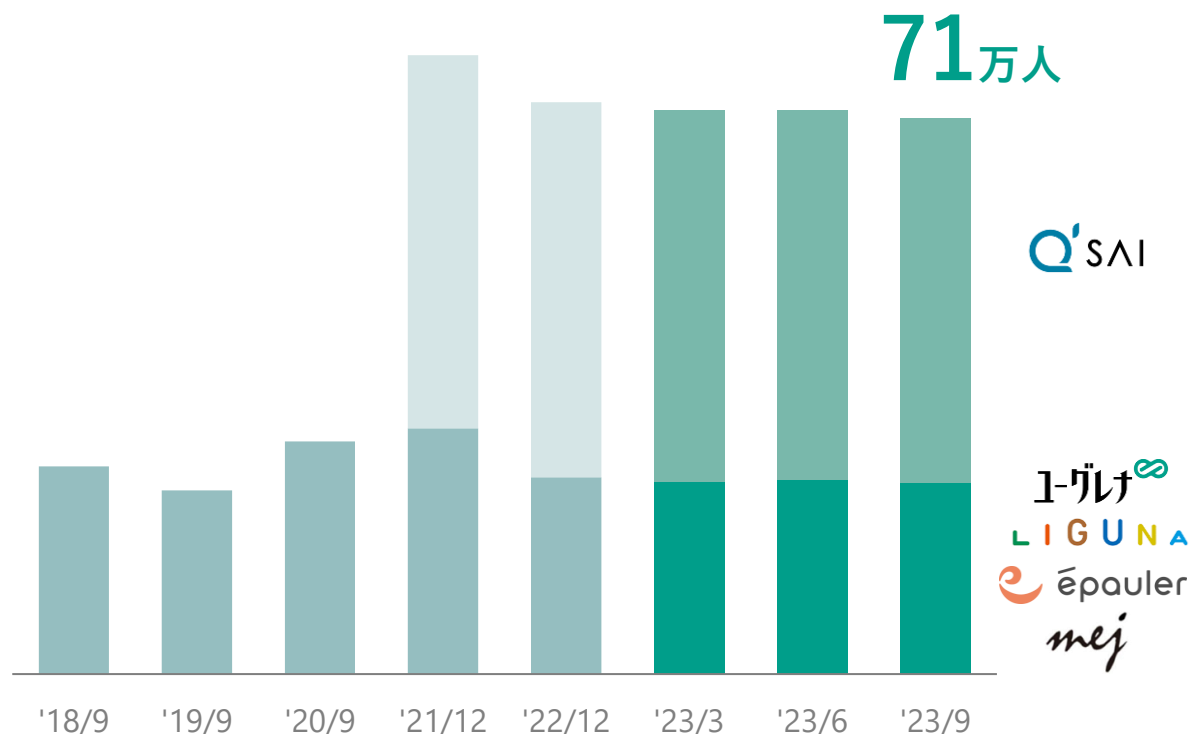
4Qは3Q比で
全体で数億円程度
投資増額予定

*1: 過去決算説明資料では連結PL数値からキューサイ分を除いた金額を記載していたが、2022/12期4Qよりヘルスケア事業の広告宣伝費からキューサイ分を除いた金額に変更し、過去分も遡及して修正
注: 単位は百万円

業績トレンド - 直販定期顧客数

3Qは広告投資の配分と拡大時期の調整等によりグループ直販定期顧客数が減少、
4Qは計画中の広告投資拡大により再増加を見込む

グループ直販定期顧客数推移



主要ブランド別増減（前Q比）

- ↑ 増加ブランド**
 - からだにユーグレナ
オフライン広告が好調で定期顧客数は18カ月連続で純増
 - 新規・投資ブランド（CONC、NEcCO、lavita）
CONCは新商品が好調で増加
- 横ばいブランド**
 - あきゅらいず
新規獲得の好調が継続しており微増
 - コラリッチ
CPO*1は6月以降良化傾向で定期顧客数も微増
 - ザ・ケール
広告投資抑制するも減少ペースは鈍化し、減少基調から横ばいへ
- ↓ 減少ブランド**
 - one
広告効率を見ながら投資をコントロール、4Qは投資拡大予定
 - C COFFEE / C CLEANSE
両ブランドともに新規獲得に苦戦し、横ばいから減少基調へ
 - epo
広告効率悪化により3Qも広告費を抑制、定期顧客数は減少基調
 - ひざサポートコラーゲン
値上げ告知により解約率が上昇、4Qは投資拡大予定
 - キューサイ医薬品
広告効率悪化による投資抑制で定期顧客数は減少

*1: CPO (Cost Per Order) = 広告宣伝投資額 ÷ 新規獲得定期顧客数
注: キューサイ社の定期顧客数はシステム変更により2021/12から遡及修正

今期方針 - サステナブル成長に向けた注力領域と中期目標

売上高成長と利益率を両立するサステナブル成長に向けて、今期は4つの領域に注力

新たな成長の柱と事業基盤の確立により、中期的に売上高500億円、調整後EBITDAマージン10%台半ばを目指す

基本方針と現状の課題

ブランド間で売上増減が拮抗、
ポートフォリオ全体では横ばい
広告投資拡大と広告単価上昇が
調整後EBITDAを下押し

ブランド群
の育成

展開ブランド数は
増えたものの、
店頭での継続的
な売上に至らず

オンライン広告単価
の高騰で、更なる
拡大にブレーキ

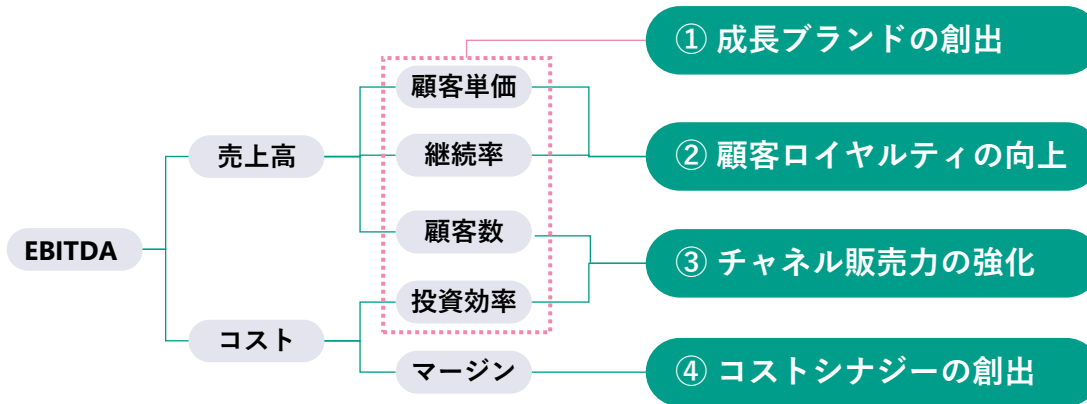
デジタル化



マルチ
チャンネル
展開

売上高と調整後EBITDAのサステナブルな成長
に向けた基盤確立が道半ば

サステナブル成長に向けた今期の注力領域



売上高	FY2022	416億円	➡	中期目標	500億円
-----	--------	-------	---	------	-------

調整後 EBITDA マージン	FY2022	10%	➡	中期目標	10%台半ば
-----------------------	--------	-----	---	------	--------

3Q進捗 - ①成長ブランドの創出

からだにユーグレナやCONCが成長トレンドを維持

キューサイやC COFFEEも広告投資拡大や商品ラインアップ拡充で4Qの反転を目指す

成長ブランド

1-グレ[∞]

からだにユーグレナ

- 定期顧客数が18ヵ月連続で純増
- オフライン広告中心に定期獲得が好調

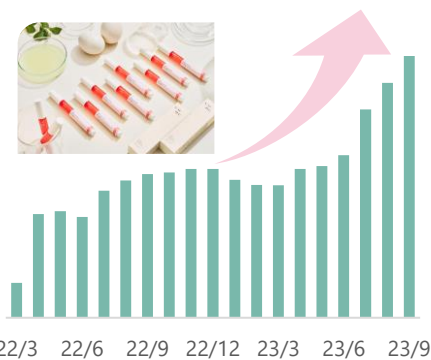
定期顧客数の推移



CONC

- 新商品リンクルインジェクションが好調、3Qの定期顧客数は2Q比+61%成長

定期顧客数の推移



NEcCO、CONCがメディアで高評価を獲得

- NEcCOのローションが女性誌『anan 2365号』の「anan モテコスメ大賞」を受賞
- CONCリンクルインジェクションが『日経TRENDY12月号』の「2024年ヒット予測ベスト30」の第7位で紹介



グループ成長ブランド

Q'SAI

キューサイ

コラリッチ



ひざサポート
コラーゲン



- コラリッチ：新しいTV広告により集客好調、4Qは更に投資拡大を予定
- ひざサポートコラーゲン：10月からの値上げ告知により解約率は一時的に上昇するも、想定以下で着地。今後、浅田真央さんを起用したキャンペーン等の展開により4Q拡大を目指す

商品ラインアップの拡充

機能性表示食品

1-グレ[∞]



- 「からだにユーグレナ ピーチミックス風味 乳酸菌入り」を新発売
- 「からだにユーグレナ マスカット&ハーブ味」もさらにおいしくなってリニューアル発売

C COFFEE

mej



- C COFFEEより睡眠の質を高める機能性チャコールココア「C COCOA」を発売、直販及びドラッグストアで展開

3Q進捗 - ②顧客ロイヤリティ / ③チャネル販売力 / ④コストシナジー

その他の注力領域においても、グループ全体で様々な取り組みが進捗

② 顧客ロイヤリティの向上

1-グル

認知度・ブランディング向上の取り組み

- モンシェールとコラボロールケーキ「堂島ユーグレナロール」を発売
- 佐川急便と共同で行う「サステナブル配送プロジェクト」が初期目標300口を達成
- 全国の東京純豆腐で「からだにユーグレナ グリーンパウダー」を活用した期間限定メニューを販売
- ロッテ クーリッシュから、「からだにユーグレナ 味」をクラウドファンディングでテスト販売



顧客のファン化促進・サステナブル体験の強化

- ファンイベント「ユーグレナ・フェス」を2023年9月9日に開催、4年ぶりにリアルとWEBで同時開催
- ファンコミュニティ「ユーグレナ・エアポート」1周年
- 定期会員向けの会報誌での発信や、サステナブルアグリテック事業の商品発売、サステナブルな商品を紹介する「サステナブルマーケット」の商品拡充等を実施



③ チャネル販売力の強化

流通向けのラインアップ強化

1-グル

- 『ユーグレナ・マイヘルス』の新しいサプリメントシリーズ「ユーグレナ・マイヘルス ディフェンシア」を、ドラッグストア専用サプリとして展開
- 注目成分エルゴチオネインと独自成分「みどり麴」を配合した対面販売専用商品「茸（きのこ）のちから」を発売

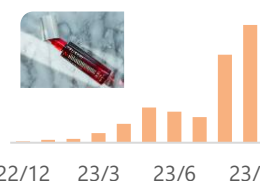


海外展開

Q'SAI épauler

- エポラの薬用育毛剤 FUSARI が、台湾でのPR施策が奏功し、台湾の店舗やECモールで売上が急成長
- キューサイがベトナムに続く海外販路拡大を計画

エポラ台湾売上高



④ コストシナジーの創出

物流改善等でコスト削減が進捗、今期1億円程度の改善見込み

- 物流改善/共通購買によるコスト最適化
- バックオフィス最適化

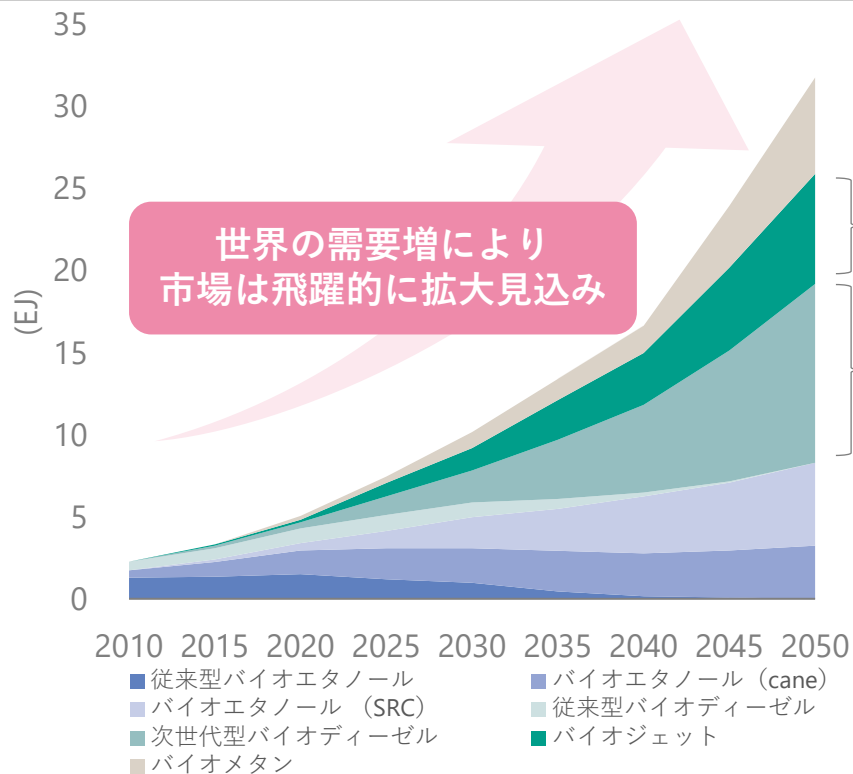
バイオ燃料事業

業界動向 - 国内外におけるバイオ燃料需要の顕在化

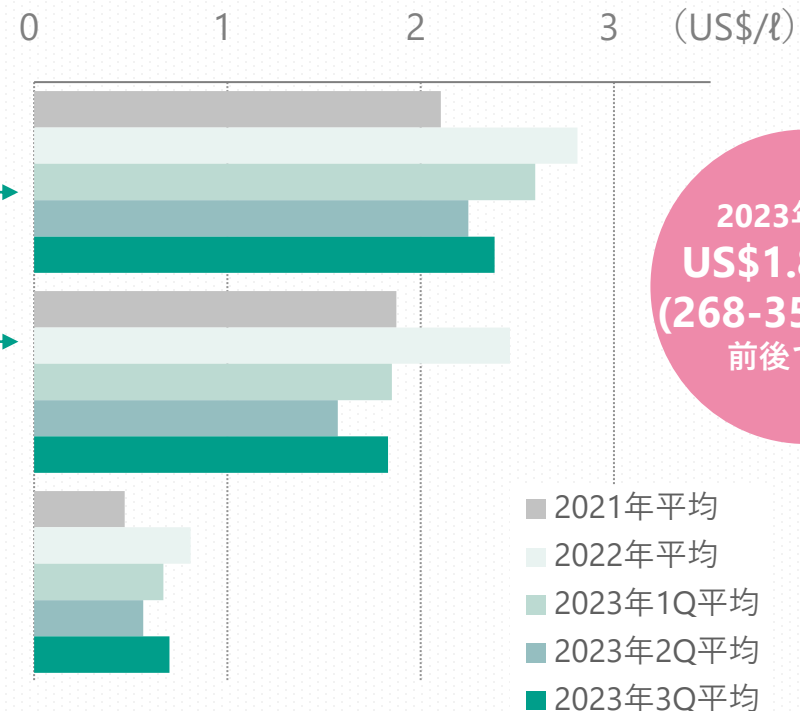
上期に軟調な推移だったバイオ燃料価格は、3Qに回復傾向へ反転

9月に採択されたRED III^{*1}やReFuelEU航空規則^{*2}によりバイオ燃料導入に対する規制は更に強化

世界のバイオ燃料消費量の見込み (IEA)



海外市場価格^{*3}



2023年3Qは
US\$1.8-2.4/l
(268-358円/l)^{*3}
前後で推移

*1: Renewable Energy Directive (再生可能エネルギー指令) の略称で、EUにおける再生可能エネルギー導入目標の設定を求める法的枠組み

*2: RefuelEU aviation rules (持続可能な航空輸送のための公平な競争環境を確保する規則案) の略称で、2030年までに温室効果ガス排出量を1990年比で少なくとも55%削減し、2050年までに気候中立 (climate neutral) にするというEUの計画

*3: Argus Biofuels等のデータを基に当社作成。比重0.8g/cm³、為替レートは1ドル=149円で試算

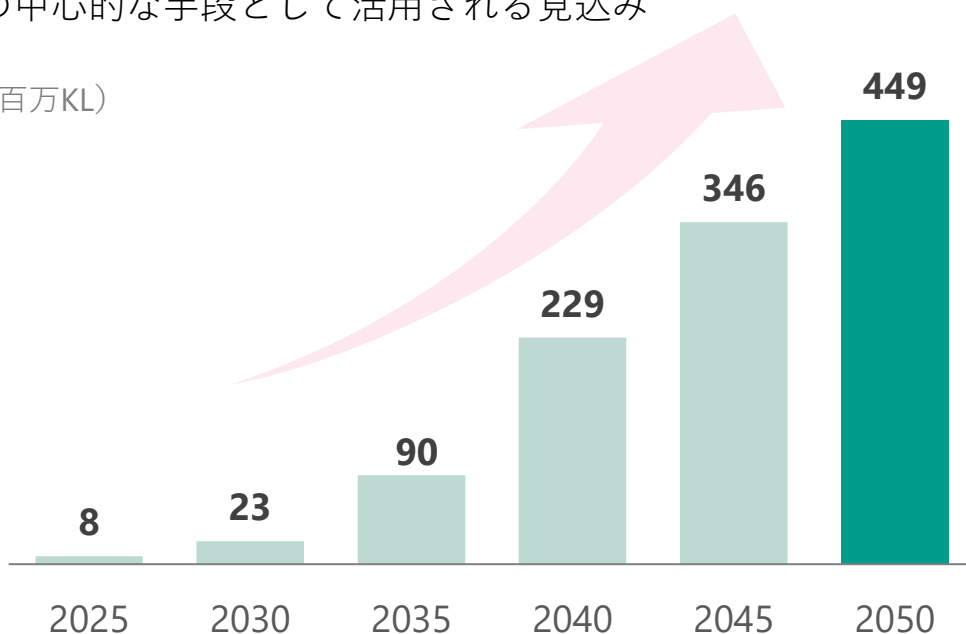
業界動向 - CORSIAの規制とSAFの需要拡大

CORSIA*1枠組みの本格運用が2024年より開始、国内外のSAF需要拡大が加速化する見通し

世界のSAF需要の見通し*2

- 2024年よりCO₂排出量を2019年比85%に抑えるCORSIAの本格運用が開始（ICAO*3加盟国の約6割が参加）、2027年以降は全ICAO加盟国に原則適用
- 中期的に国際航空需要が拡大する中、SAFがCO₂排出量削減の中心的な手段として活用される見込み

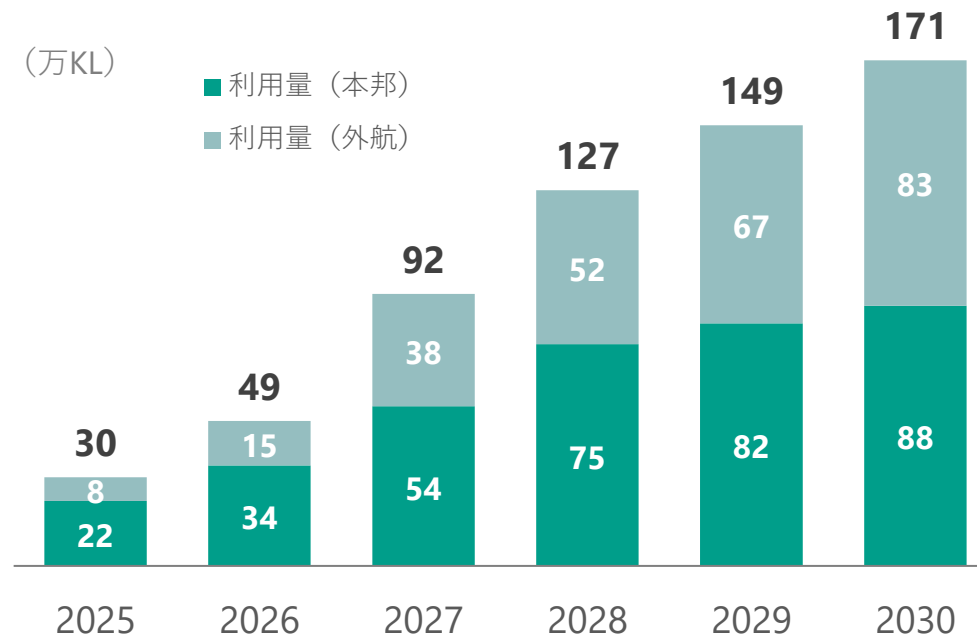
(百万KL)



日本のSAF需要見通し*4

- 経済産業省は、2030年から国内空港で給油する燃料のうち10%をSAFにすることを石油元売り企業に義務付ける方針を提示

(万KL)



*1: Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation (国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム) の略称で、ICAOに加盟する国際航空会社を対象とした、市場メカニズムを活用したCO₂排出量削減制度。2023年1月時点で113ヵ国が参加

*2: IATA「Sustainable Aviation Fuel Fact Sheet」およびICAO HPを基に当社作成

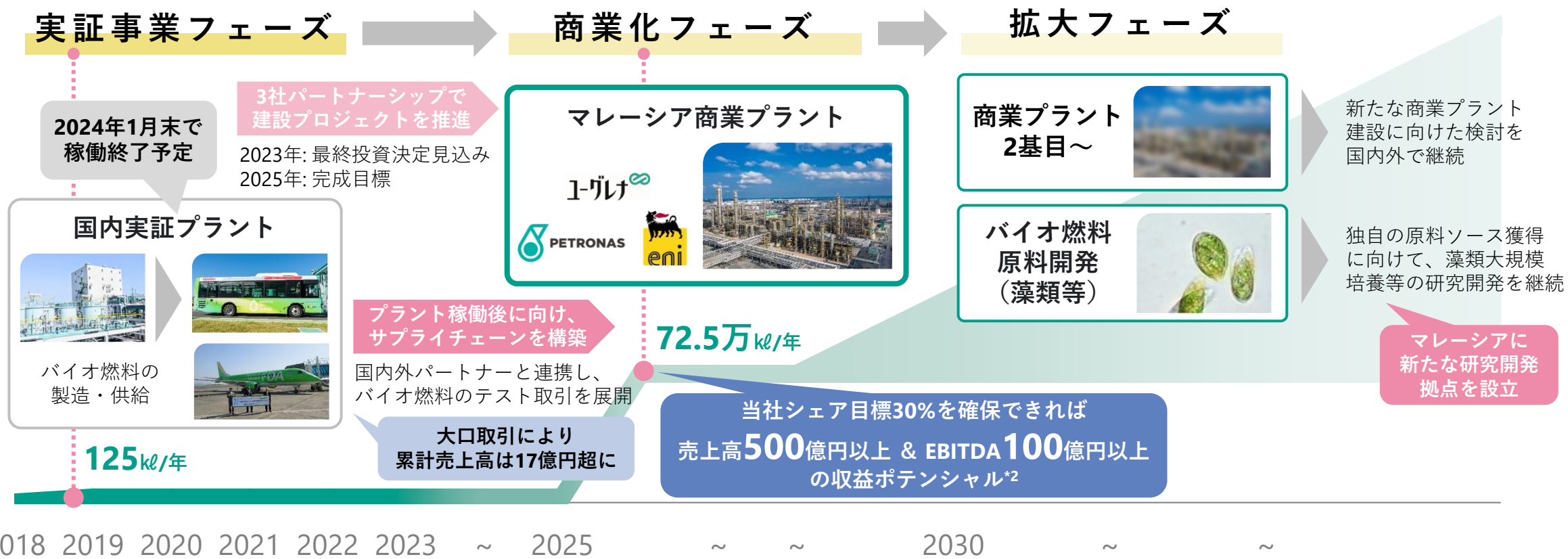
*3: International Civil Aviation Organization (国際民間航空機関) の略称で、世界193ヵ国が加盟

*4: 国土交通省「SAFの導入促進に向けた官民協議会 説明資料」を基に当社作成

バイオ燃料事業 - 中長期的なロードマップ

実証プラントの稼働を終了し、マレーシアでの商業プラント建設プロジェクト実現に注力

商業化後を見据えて、4Qも当社サプライチェーン構築に向けたテスト取引*1や、マレーシア研究所での研究開発を継続



*1: 当社は、バイオ燃料などの持続可能な製品の国際的な認証制度の一つであるISCC EU認証（国際持続可能性カーボン認証）を2021年9月に取得済み

*2: バイオ燃料価格250円/ℓ、EBITDAマージン20%、当社持分シェア30%と想定した場合の、当社持分寄与ベースの試算値。実際の売上高・EBITDA規模は、将来のバイオ燃料の原料・製品価格動向、当社の最終シェア、商業プラントの稼働率等によって変動

実証 - バイオ燃料供給先の拡大と多様化

陸・海・空の全領域でバイオ燃料供給先を拡大かつ多様化

バイオ燃料供給実績

累計 **86** 件



*1: 入出港する船舶の接離岸や水上構造物の作業をサポートする船のこと

実証 - 2023年12月期のサステオ供給実績

航空自衛隊の戦闘機やブルーインパルスに国産SAF「サステオ」を初給油

佐川急便とのサステナブル配送プロジェクトや、東京都やG7広島サミットなど地方自治体との連携も拡大

企業との取り組み



陸

道内初となるサステオ供給
苫小牧埠頭グループの大北運輸が運行する集荷・配送用トラックにサステオを使用
2023年5月



陸

鉄道や空港への路線バスに導入
西日本鉄道の路線バスおよびスターフライヤーの就航する福岡空港で試験的にサステオを導入
2023年5月



陸

自動車レースで継続利用
ENEOSスーパー耐久シリーズ2023でサステオを供給し24時間完走
2023年5月



陸

佐川急便の運送トラックに給油
サステナブル配送プロジェクトにて佐川急便の運送トラックにサステオを初給油
2023年9月

地域との取り組み



陸

空

東京都^{*1}
サービスステーションや都営バス、定期旅客便にサステオを使用
2023年1月



陸

海

空

G7広島サミット
G7にて政府専用機やチャーター高速船、シャトルバスなどにサステオを使用
2023年6月



陸

島根県松江市
松江市の清掃収集車にてサステオを使用開始
2023年10月



陸

滋賀県守山市
LAKE BIWA TRIATHLON大会
大会に参加した選手の自転車の輸送にサステオを活用
2023年10月

政府機関との取り組み



空

政府専用機に給油
防衛省が運航する政府専用機2機に「サステオ」を給油
2023年1月



空

航空自衛隊機戦闘機に給油
航空自衛隊の岐阜基地所属戦闘機F-2、F-15の2機体に「サステオSAF」を初給油
2023年6月



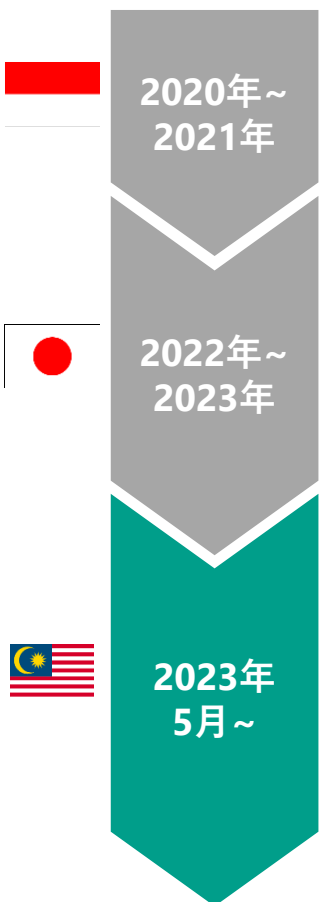
空

ブルーインパルスに初給油
航空自衛隊松島基地の第4航空団に所属する第11飛行隊（ブルーインパルス）に給油
2023年9月

研究開発 - マレーシアにおける研究開発

マレーシア拠点で、バイオ燃料原料用途のバイオマス生産・利用に関する研究開発を推進

現地研究員の採用や各種研究活動を開始、研究所立ち上げが順調に進捗



インドネシア

- NEDO委託事業として、インドネシアで大規模実証の準備を進めてきたが、コロナ禍や現地パートナー事情により難航

三重県多気町「藻類エネルギー研究所*1」

- 生産物の価値最大化を目指して、各生産工程のコスト低減、および製品品質・価格を向上させる技術開発を実施
- インドネシアでは小規模培養試験を継続し、現地生産性評価を実施

マレーシア「熱帯バイオマス技術研究所*2」

- ユーグレナなどの微細藻類をはじめとしたバイオ燃料原料用途等のバイオマス生産・利用の最大化・最適化を中心とする研究開発を推進
- 現地で研究員を継続的に採用し、各種研究活動を推進
- マレーシアにて藻類を研究している企業や大学、政府関係者が集う国際藻類学会 Global Algae Summit 2023 (GAS 2023)を開催

藻類エネルギー研究所



熱帯バイオマス技術研究所



@マレーシア工科大学内

*1: バイオ燃料用微細藻類の大規模、低コスト生産技術の確立を目指すため、2016年より研究開発を開始

*2: マレーシア工科大学 (UTM) の研究施設内に設立。「熱帯バイオマス技術研究所」の開設に伴い、「藻類エネルギー技術研究所 (三重県)」の機能は「熱帯バイオマス技術研究所」等に移管

商業化フェーズへの移行 - バイオ燃料実証プラントの稼働終了

実証フェーズの目標が成功裏に達成できたことを踏まえ、商業化フェーズへの移行を決定

実証プラントの稼働を2024年1月末で終了*1。今後は商業プラント建設、サプライチェーン構築や研究開発に注力するとともに、国内外パートナーとの連携によりバイオ燃料販売の更なる拡大を目指す

実証プラント稼働終了の背景



- 陸・海・空の全領域への供給を実現、安定製造・供給体制も確立し、当初目的を達成
- 国内におけるバイオ燃料普及ステージが継続利用や輸入品拡大へと進展する中、ニーズの変化に 대응するため実証プラントの稼働終了を決定

業績への影響

2023年度の業績影響

- 最大550百万円程度の特別損失を計上する可能性あり
助成金の返還費用*1 + 退職希望者への特別退職金等*2

2025年度以降の業績影響（2022年度比）

- 営業損益4億円、調整後EBITDA3億円程度改善見込み

商業化フェーズにおける注力領域



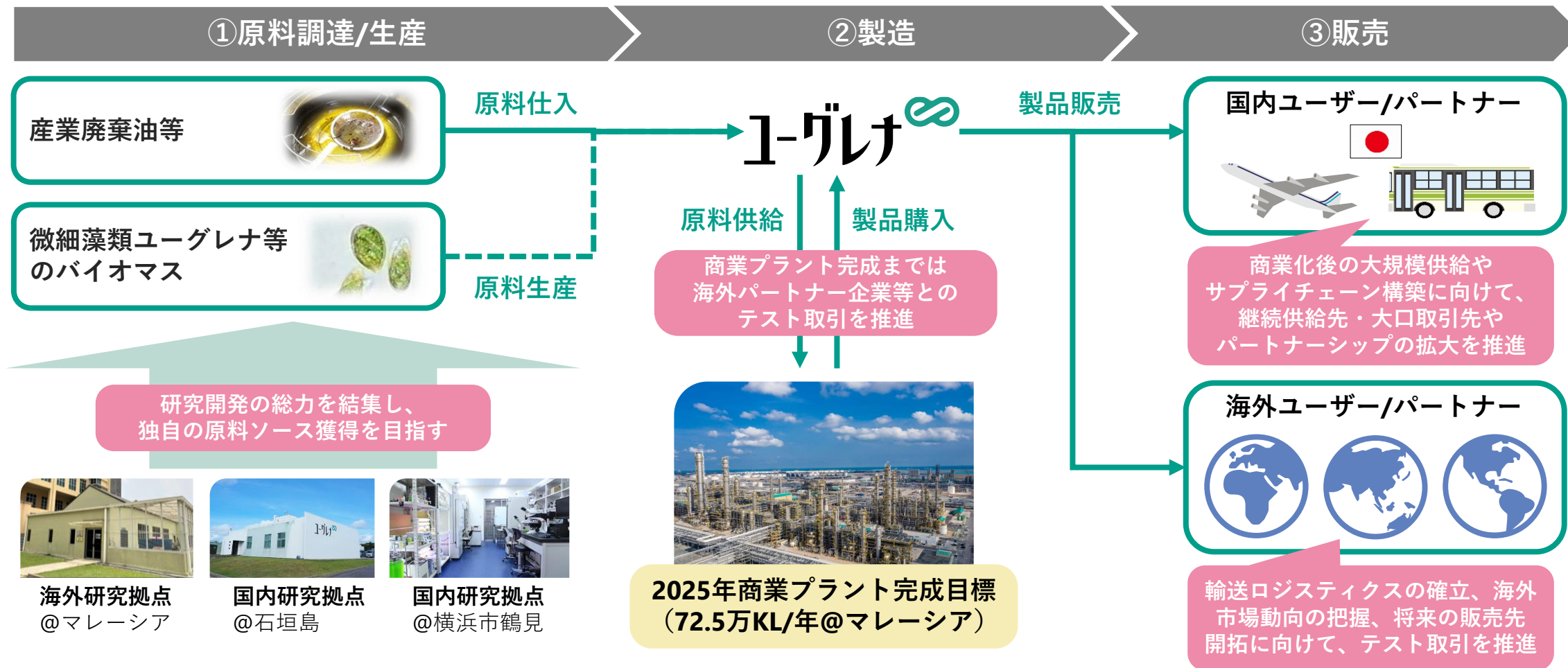
- マレーシア商業プラントの設計・建設や運用体制の構築
- 国内外パートナーと連携したバイオ燃料の販売拡大やサプライチェーンの構築
- バイオ燃料原料用途のバイオマス生産・利用に関する研究開発

*1: 実証プラントは、神奈川県企業誘致推進方策「セレクト神奈川100」および横浜市「横浜市企業立地等促進特定地域等における支援措置に関する条例（企業立地促進条例）」の支援対象事業に認定されており、土地・建物・設備への投資額に対する補助金、並びに不動産取得税・固定資産税・都市計画税の軽減等の支援を受けております。当社は、両制度において本実証プラントの稼働期間を10年間とする計画で認定を受けておりましたが、今般、計画期間満了に先立って本実証プラントの稼働終了を決定したため、これまでに受領した補助金及び軽減税額（総額で約465百万円）の返還を求められる可能性があります。

*2: 実証プラントの解体撤去費用に関しては、貸借対照表に計上している資産除去債務349百万円の範囲内に収まる見込み

商業化フェーズへの移行 - 商業化後を見据えた取り組み

商業化後に必要となる大規模・継続販売やサプライチェーン構築に向けて、国内外パートナーと連携したユーザー開拓やテスト取引*1の拡大、および原料用途のバイオマス生産・利用に関する研究開発を推進



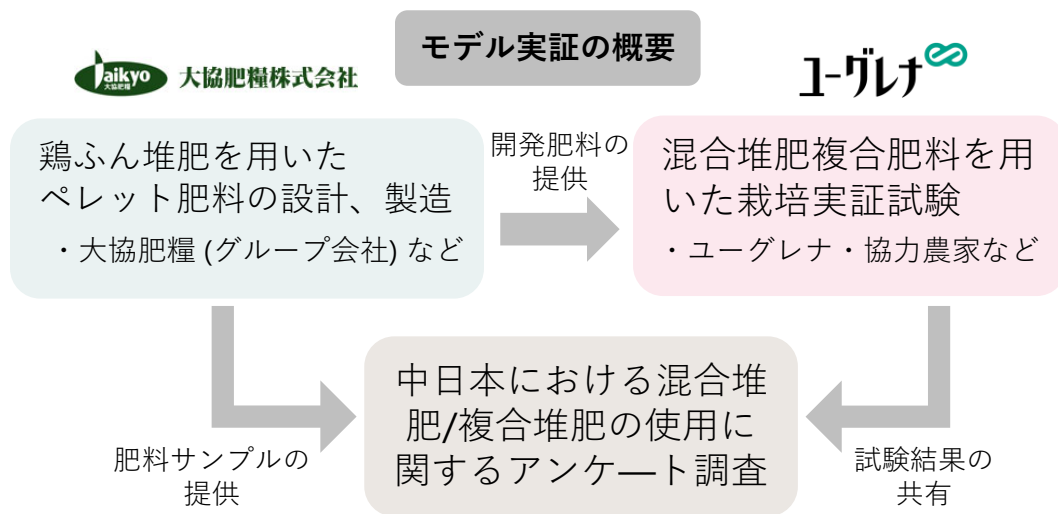
その他事業

その他事業 - サステナブルアグリテック事業

国内未利用資源である鶏ふん堆肥を用いたペレット肥料開発が農林水産省のモデル実証に採択
肥料領域における初の個人向け商品として、ユーグレナ配合培養土を用いた栽培キットを数量限定で販売

ペレット堆肥の広域流通促進モデル実証に採択

個人向け栽培キットの期間限定販売



- 未利用資源である家畜排せつ物をペレット堆肥として活用・広域流通させる実証
- 当社グループ会社である大協肥糧をはじめ、複数のパートナーと協業して実証を行う

- 肥料領域における初の個人向け商品として、微細藻類ユーグレナ配合培養土「やさしい栽培キット」をECサイトにて数量限定で販売

補足資料

業績推移サマリー - 連結損益計算書 (2023年度)

2023/12期	開示業績											
	連結合計				うちユーグレナ ^{*1}				うちキューサイ			
	1Q	2Q	3Q	合計	1Q	2Q	3Q	合計	1Q	2Q	3Q	合計
(百万円)												
売上高 (新区分ベース)	10,837	11,968	11,275	34,080	4,611	5,603	5,002	15,216	6,226	6,365	6,273	18,864
直販	8,244	8,347	8,201	24,792	2,587	2,682	2,537	7,806	5,658	5,665	5,664	16,986
流通	891	987	953	2,831	322	287	344	954	568	700	609	1,877
OEM・原料・海外	239	310	353	902	239	310	353	902	0	0	0	0
その他	1,463	2,324	1,767	5,555	1,463	2,324	1,767	5,554	0	0	0	1
売上原価	2,996	4,028	3,558	10,582	1,827	2,739	2,318	6,884	1,169	1,289	1,240	3,698
売上総利益	7,841	7,940	7,717	23,498	2,784	2,864	2,684	8,332	5,057	5,076	5,033	15,166
粗利率	72%	66%	68%	69%	60%	51%	54%	55%	81%	80%	80%	80%
(内 ヘルスケア事業)	76%	74%	76%	75%	69%	65%	69%	67%	81%	80%	80%	80%
販売費及び一般管理費	8,017	8,524	7,916	24,458	3,403	3,614	3,233	10,250	4,615	4,910	4,683	14,208
販売費	5,157	5,362	4,966	15,485	1,808	1,984	1,679	5,470	3,349	3,378	3,287	10,015
(内 広告宣伝費)	2,669	2,789	2,561	8,020	978	1,026	880	2,884	1,690	1,763	1,682	5,136
人件費	1,176	1,249	1,341	3,766	710	743	724	2,177	466	506	617	1,589
管理費	1,397	1,610	1,321	4,328	604	590	558	1,752	792	1,021	763	2,576
研究開発費	288	303	288	879	281	297	272	851	7	6	16	28
営業利益	-176	-584	-199	-959	-619	-750	-549	-1,918	442	166	350	958
調整後EBITDA ^{*2}	777	495	708	1,980	-214	-411	-168	-792	991	906	876	2,772
営業外損益	65	56	41	162	179	162	184	525	-114	-107	-143	-364
(内 助成金収入)	189	115	137	441	187	111	136	434	2	3	2	7
経常利益	-111	-529	-158	-798	-439	-588	-365	-1,392	328	60	207	595
特別損益	30	-9	-3	17	30	-6	-1	23	0	-3	-3	-6
親会社株主に帰属する当期純利益	-168	-746	-350	-1,264	na	na	na	na	na	na	na	na
【参考指標】												
減価償却費 ^{*3}	524	723	504	1,751	121	130	123	374	403	593	381	1,377
(内 M&A関連)	365	360	360	1,085	54	48	48	150	312	312	312	935
のれん償却額	212	212	212	635	68	68	68	205	143	143	143	430
棚卸資産ステップアップ費用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*1: 連結PLからキューサイ・グループPL (キューサイ・グループとその他グループ間の連結相殺反映後) を控除した金額で、グループ会社PLを含む

*2: 調整後EBITDAは当社独自の財務指標。計算式は、EBITDA(営業利益+のれん償却費及び減価償却費) + 助成金収入 + 株式関連報酬 + 棚卸資産ステップアップ影響額

*3: 調整後EBITDAの算出に使用した金額であり、連結キャッシュ・フロー計算書の数値とは異なる

【参考】前期業績推移サマリー - 連結損益計算書 (2022年度)

2022/12期 (百万円)	開示業績					実質業績 (棚卸資産ステップアップ費用化影響を除いたもの)														
	連結合計					連結合計					うちユーグレナ ¹					うちキューサイ				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
売上高 (新区分ベース)	10,823	10,761	10,752	12,056	44,393	10,823	10,761	10,752	12,056	44,393	4,508	4,319	4,519	5,447	18,794	6,315	6,443	6,233	6,609	25,599
直販	8,696	8,625	8,377	8,584	34,281	8,696	8,625	8,377	8,584	34,281	3,075	2,938	2,853	2,852	11,718	5,621	5,687	5,523	5,732	22,563
流通	861	1,022	944	1,312	4,139	861	1,022	944	1,312	4,139	353	442	355	435	1,584	508	581	590	877	2,555
OEM・原料・海外	365	264	229	454	1,313	365	264	229	454	1,313	365	264	229	454	1,313	0	0	0	0	0
その他	901	850	1,202	1,706	4,660	901	850	1,202	1,706	4,660	716	674	1,083	1,706	4,179	186	175	120	0	481
売上原価	3,466	2,951	3,042	3,937	13,396	2,683	2,467	2,835	3,547	11,532	1,362	1,305	1,561	2,256	6,484	1,321	1,162	1,274	1,290	5,048
売上総利益	7,357	7,810	7,710	8,119	30,996	8,139	8,295	7,917	8,510	32,861	3,146	3,014	2,959	3,191	12,310	4,993	5,281	4,958	5,319	20,551
粗利率	68%	73%	72%	67%	70%	75%	77%	74%	71%	74%	70%	70%	65%	59%	65%	79%	82%	80%	80%	80%
(内 ヘルスケア事業)	71%	76%	74%	70%	73%	79%	81%	76%	73%	77%	78%	79%	71%	63%	72%	79%	82%	80%	80%	80%
販売費及び一般管理費	8,084	8,506	8,585	9,277	34,452	8,084	8,506	8,585	9,277	34,452	3,480	3,732	3,730	4,063	15,005	4,604	4,774	4,855	5,214	19,447
販売費	5,201	5,481	5,301	5,796	21,779	5,201	5,481	5,301	5,796	21,779	1,981	2,167	1,966	2,131	8,245	3,220	3,314	3,335	3,665	13,534
(内 広告宣伝費)	2,583	2,825	2,707	3,027	11,142	2,583	2,825	2,707	3,027	11,142	1,006	1,208	1,097	1,157	4,468	1,577	1,617	1,611	1,870	6,674
人件費	1,110	1,199	1,274	1,427	5,009	1,110	1,199	1,274	1,427	5,009	600	688	692	842	2,821	509	512	582	585	2,188
管理費	1,417	1,452	1,646	1,668	6,183	1,417	1,452	1,646	1,668	6,183	556	544	728	731	2,559	861	908	918	937	3,624
研究開発費	355	374	364	387	1,480	355	374	364	387	1,480	342	333	344	359	1,379	13	41	20	27	101
営業利益	-727	-695	-875	-1,158	-3,456	56	-211	-668	-767	-1,591	-334	-718	-771	-872	-2,695	390	506	103	105	1,104
調整後EBITDA ²	1,555	666	268	160	2,649	1,555	666	268	160	2,649	585	-427	-402	-500	-745	970	1,093	670	660	3,393
営業外損益	809	16	331	-190	966	809	16	331	-190	966	944	153	151	-110	1,139	-135	-137	180	-80	-173
(内 助成金収入)	675	13	83	17	789	675	13	83	17	789	673	10	82	14	780	2	3	1	3	8
経常利益	82	-679	-544	-1,348	-2,490	864	-195	-337	-958	-625	610	-564	-620	-982	-1,556	255	369	283	24	931
特別損益	2	1	484	-405	82	2	1	484	-405	82	2	1	-0	-405	-402	0	-0	484	0	484
親会社株主に帰属する当期純利益	40	-505	-408	-1,799	-2,672	493	-332	-483	-1,567	-1,890	na	na	na	na	na	na	na	na	na	na
【参考指標】																				
減価償却費 ³	581	584	588	579	2,332	581	584	588	579	2,332	148	146	167	169	630	433	438	421	409	1,702
(内 M&A関連)	355	355	368	368	1,446	355	355	368	368	1,446	43	43	56	56	198	312	312	312	312	1,248
のれん償却額	203	203	213	212	830	203	203	213	212	830	57	57	68	68	251	145	145	145	143	579
棚卸資産ステップアップ費用	783	484	207	391	1,865	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*1: 連結PLからキューサイ・グループPL (キューサイ・グループとその他グループ間の連結相殺反映後) を控除した金額で、グループ会社PLを含む

*2: 調整後EBITDAは当社独自の財務指標。計算式は、EBITDA(営業利益+のれん償却費及び減価償却費) + 助成金収入 + 株式関連報酬 + 棚卸資産ステップアップ影響額

*3: 調整後EBITDAの算出に使用した金額であり、連結キャッシュ・フロー計算書の数値とは異なる

業績推移サマリー - セグメント別PL

事業セグメント別内訳 (棚卸資産ステップアップ費用化影響を除く)									
(百万円)	2022/12期				合計	2023/12期			
	'22Q1	'22Q2	'22Q3	'22Q4		'23Q1	'23Q2	'23Q3	合計
連結合計 (S/U除く)									
売上高	10,823	10,761	10,752	12,056	44,393	10,837	11,968	11,275	34,080
増減率	na	-1%	0%	12%	na	-10%	10%	-6%	na
売上総利益	8,139	8,295	7,917	8,510	32,861	7,841	7,940	7,717	23,498
対売上高比率	75%	77%	74%	71%	74%	72%	66%	68%	69%
調整後EBITDA	1,555	666	268	160	2,649	777	495	708	1,980
対売上高比率	14%	6%	2%	1%	6%	7%	4%	6%	6%
ヘルスケア事業 (S/U除く)									
売上高	10,124	10,103	10,108	11,282	41,617	10,026	10,485	9,992	30,503
増減率	na	0%	0%	12%	na	-11%	5%	-5%	na
売上総利益	7,960	8,160	7,707	8,267	32,094	7,663	7,743	7,600	23,006
対売上高比率	79%	81%	76%	73%	77%	76%	74%	76%	75%
調整後EBITDA	1,412	1,258	827	809	4,305	1,301	1,067	1,261	3,629
対売上高比率	14%	12%	8%	7%	10%	13%	10%	13%	12%
バイオ燃料事業									
売上高	22	42	105	94	263	52	849	869	1,770
増減率	na	91%	149%	-10%	na	-44%	1530%	2%	na
売上総利益	14	9	49	40	112	-1	34	22	55
対売上高比率	64%	20%	47%	43%	43%	-2%	4%	3%	3%
調整後EBITDA	449	-188	-119	-204	-62	-147	-142	-85	-374
助成金収入	612	0	45	0	657	79	57	97	233
その他事業									
売上高	677	616	540	680	2,513	759	634	415	1,807
増減率	na	-9%	-12%	26%	na	12%	-17%	-35%	na
売上総利益	165	126	161	203	656	180	163	95	437
対売上高比率	24%	20%	30%	30%	26%	24%	26%	23%	24%
調整後EBITDA	26	-37	-29	-64	-104	28	-41	-113	-127
対売上高比率	4%	-6%	-5%	-9%	-4%	4%	-6%	-27%	-7%
全社									
売上高	0	0	0	0	0	0	0	-0	-0
売上総利益	0	-0	-0	0	-0	0	0	-0	0
調整後EBITDA	-332	-367	-411	-381	-1,491	-404	-389	-356	-1,149

ヘルスケア事業内訳 (棚卸資産ステップアップ費用化影響を除く)									
(百万円)	2022/12期				合計	2023/12期			
	'22Q1	'22Q2	'22Q3	'22Q4		'23Q1	'23Q2	'23Q3	合計
ユーグレナ・ヘルスケア^{*1}									
売上高	2,098	2,044	1,946	2,235	8,323	1,883	2,014	1,954	5,851
増減率	na	-3%	-5%	15%	na	-16%	7%	-3%	na
売上総利益	1,526	1,495	1,418	1,513	5,952	1,425	1,442	1,427	4,294
対売上高比率	73%	73%	73%	68%	72%	76%	72%	73%	73%
調整後EBITDA	66	0	-43	-87	-64	173	66	206	446
対売上高比率	3%	0%	-2%	-4%	-1%	9%	3%	11%	8%
エボラ									
売上高	1,010	966	1,007	1,108	4,091	951	901	932	2,784
増減率	na	-4%	4%	10%	na	-14%	-5%	3%	na
売上総利益	774	748	764	835	3,120	738	722	718	2,179
対売上高比率	77%	77%	76%	75%	76%	78%	80%	77%	78%
調整後EBITDA	15	25	-51	-49	-60	4	-17	90	77
対売上高比率	1%	3%	-5%	-4%	-1%	0%	-2%	10%	3%
MEJ									
売上高	778	748	548	492	2,567	393	444	413	1,250
増減率	na	-4%	-27%	-10%	na	-20%	13%	-7%	na
売上総利益	659	621	463	410	2,152	325	347	319	992
対売上高比率	85%	83%	84%	83%	84%	83%	78%	77%	79%
調整後EBITDA	351	115	192	157	815	71	25	36	132
対売上高比率	45%	15%	35%	32%	32%	18%	6%	9%	11%
キューサイ・グループ^{*2}									
売上高	6,334	6,478	6,270	6,649	25,731	6,264	6,408	6,309	18,981
増減率	na	2%	-3%	6%	na	-6%	2%	-2%	na
売上総利益	5,013	5,316	4,996	5,359	20,683	5,095	5,120	5,069	15,284
対売上高比率	79%	82%	80%	81%	80%	81%	80%	80%	81%
調整後EBITDA	986	1,132	707	700	3,524	1,028	949	911	2,889
対売上高比率	16%	17%	11%	11%	14%	16%	15%	14%	15%
事業内共通・相殺、はこ社^{*3}									
売上高	-96	-134	336	799	905	536	717	383	1,637
売上総利益	-12	-19	67	150	186	79	112	67	258
調整後EBITDA	-5	-14	21	88	90	25	44	18	86

*1: ユーグレナ社のヘルスケア事業及びグループ会社のLIGUNA、八重山殖産、上海ユーグレナの合計

*2: キューサイ社及びQ-Partners、キューサイファーム島根、キューサイ分析研究所（2022年8月末に売却）、CQベンチャーズの合計。内部取引相殺を区分したため、前頁数値と相違あり

*3: ヘルスケア事業全体の共通費、各ヘルスケア事業内グループ間の連結相殺、はこ社（2022年7月よりPL連結）の合計

業績推移サマリー - 連結貸借対照表

(百万円)	2021/12末	2022/3末	2022/6末	2022/9末	2022/12末	2023/3末	2023/6末	2023/9末
流動資産	20,438	20,343	19,436	21,320	19,694	26,225	24,560	24,791
現金及び預金	9,901	10,145	9,471	11,646	9,954	16,819	16,299	15,698
棚卸資産	6,462	5,986	5,458	5,277	4,623	4,677	4,193	4,148
（内 棚卸資産ステップアップ）	1,865	1,082	597	391	-	-	-	-
その他	4,076	4,212	4,506	4,397	5,117	4,729	4,069	4,944
固定資産	40,569	39,832	39,213	38,805	37,581	37,049	36,257	35,664
有形固定資産	6,852	6,836	6,743	6,059	5,848	5,795	5,771	5,687
無形固定資産	31,904	31,291	30,691	30,889	30,023	29,489	28,771	28,284
（内 のれん）	13,035	12,832	12,629	12,697	12,486	12,274	12,062	11,851
（内 顧客関連資産）	17,011	16,673	16,336	16,525	16,174	15,825	15,482	15,139
投資その他の資産	1,814	1,705	1,778	1,857	1,710	1,765	1,715	1,693
総資産	61,008	60,175	58,649	60,124	57,276	63,274	60,817	60,455
負債	40,419	39,774	38,788	39,004	37,922	40,808	39,082	39,011
流動負債	10,634	10,613	10,995	11,283	12,277	10,787	10,275	10,338
（内 短期借入金）	2,288	2,164	2,495	2,473	2,709	2,732	2,509	2,973
固定負債	29,785	29,161	27,792	27,721	25,645	30,021	28,807	28,672
（内 長期借入金）	22,599	22,436	21,324	21,389	19,497	19,247	18,120	18,101
（内 繰延税金負債）	6,297	5,867	5,593	5,483	5,330	5,159	5,071	4,955
（内 転換社債）	-	-	-	-	-	4,800	4,800	4,800
純資産	20,589	20,401	19,861	21,120	19,354	22,466	21,736	21,444
株主資本	20,183	20,011	19,477	20,727	18,958	22,456	21,736	21,459
（内 資本金）	13,888	13,905	13,950	13,970	13,985	15,818	15,831	15,868
（内 資本剰余金）	11,602	11,619	11,664	13,301	13,316	15,149	15,162	15,199
（内 利益剰余金）	(5,273)	(5,479)	(6,102)	(6,510)	(8,309)	(8,477)	(9,223)	(9,573)
その他	405	391	384	393	396	10	(0)	(15)
負債・純資産合計	61,008	60,175	58,649	60,124	57,276	63,274	60,817	60,455

会社概要

1-グレナ

いきる、たのしむ、サステナブル。



創業	2005年8月9日
本店	東京都港区芝5-29-11
資本金	158億6,779万円（2023年9月末時点）
社員数*1	1,070名（連結）（2022年12月末時点）
グループ会社	連結子会社15社（うち、キューサイ・グループ4社、海外合弁会社2社）（2022年12月末時点）
フィロソフィー	Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）
パーパス	人と地球を健康にする
上場市場	東京証券取引所プライム市場
証券コード	2931
株主数	117,738名（2023年6月末時点）

ユーグレナ・グループの歩み - サステナビリティを軸とした事業展開

東証マザーズ上場以降の10年間で、バングラデシュの人々を健康にするという創業時の想いと、バイオ燃料フライトの実現という上場時の目標を共に実現

Copyright Euglena Co., Ltd. All rights reserved.



東証プライム市場へ移行



ユーグレナ・グループの今 - サステナビリティを軸とした事業展開

「Sustainability First」のもと、サステナビリティを軸に様々な事業を展開

成長投資、パートナーシップ、M&Aを活用しながら、事業成長を通じた社会問題の縮小を目指す

主要セグメント概要

ヘルスケア事業

健康食品



化粧品



その他事業（新規領域）

サステナブルアグリテック（1次産業）


バイオインフォマティクス


ソーシャルビジネス

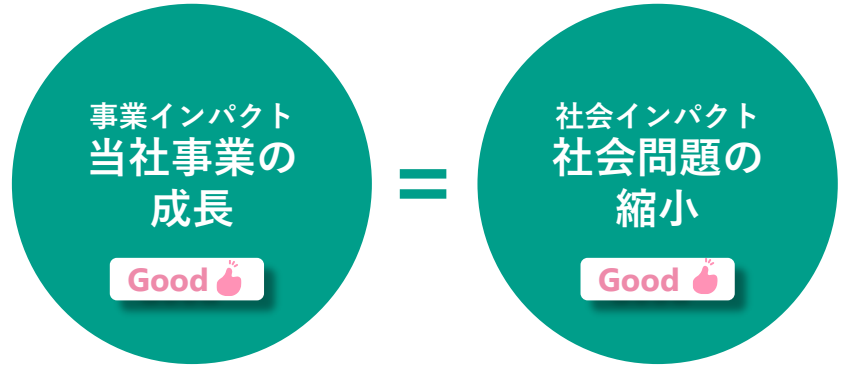
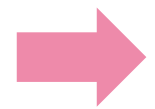

バイオ燃料事業



ユーグレナ・フィロソフィー

Sustainability First

ユーグレナグループの仲間全員が
”自分たちの幸せが誰かの幸せと共存し続ける方法”を
常に考え、行動している状態



パーパス

人と地球を健康にする

ヘルスケア事業 - ブランド・ポートフォリオ

サステナビリティ、ウェルエイジング、先進的市場創出の3領域をターゲットとし、食品、化粧品を展開

	サステナビリティ	ウェルエイジング	先進的市場創出
食品	<p>からだにユーグレナ</p>  <p>1-グルけ</p>	<p>ひざサポート コラーゲン</p>  <p>Q'SAI</p> <p>ザ・ケール</p>  <p>Q'SAI</p>	<p>C COFFEE</p>  <p>mej</p> <p>SOLUME</p>  <p>1-グルけ</p>
化粧品	<p>one</p>  <p>1-グルけ</p> <p>NEcCO</p>  <p>1-グルけ</p> <p>lavita ORGANICS</p>  <p>1-グルけ</p> <p>あきゆらいず</p>  <p>LIGUNA</p>	<p>コラリッチ</p>  <p>Q'SAI</p> <p>QetA</p>  <p>Q'SAI</p> <p>epo</p>  <p>épauler</p> <p>FUSARI</p>  <p>épauler</p>	<p>CONC</p>  <p>1-グルけ</p>

ブランド開発でターゲットとする3領域

- 1 サステナビリティ**
 独自素材/オーガニック素材や環境に配慮したパッケージを通じて、健康/美容やライフスタイル等の観点から、ウェルビーイングの実現をサポートする商品群
- 2 ウェルエイジング**
 「アンチエイジング」ではなく、歳を取ることを肯定しながら幸せを実現する「ウェルエイジング」をコンセプトとした商品群
- 3 先進的市場創出**
 多様化する顧客ニーズへ対応することを目的とし、これまでに類を見ない新製品や新ジャンルを創出することをコンセプトとした商品群

バイオ燃料事業 - 商業プラント建設・運営プロジェクトの概要

最大12,500バレル/日（約72.5万KL/年相当）規模のバイオ燃料製造プラントの建設・運営プロジェクトを、マレーシアにおいてPETRONAS社・Eni社と共同で検討

当社は、推定10億ドル規模の本プロジェクトに目標シェア30%で参画することで、バイオ燃料事業の商業化を目指す本プロジェクトの規模及び各社シェアは、2023年中に最終決定する見込み



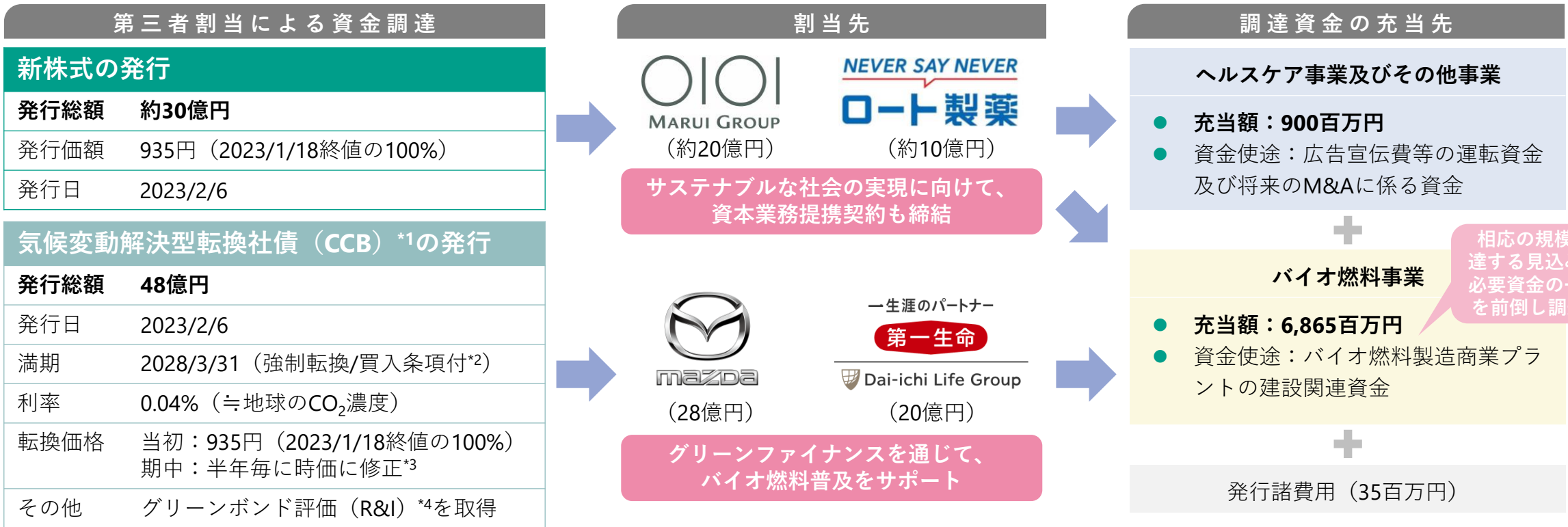
プロジェクト計画概要	
建設地	PETRONAS社のPengerang Integrated Complex (マレーシア南端のジョホール州)
製品	SAF (バイオジェット燃料)、HVO (次世代バイオディーゼル燃料) (製造量はフレキシブルに調整)
使用原料	使用済み植物油、動物性油脂、植物油の加工に伴う廃棄物、将来的には微細藻類由来の藻油などのバイオマス原料
原料処理能力	65万トン/年
製造能力	最大12,500バレル/日 (約72.5万KL/年相当) のバイオ燃料*1
スケジュール (予定)	技術的・経済的な実現可能性評価を現在実施中。2025年中の本商業プラント完成を目指して、2023年中に3社間で最終的な投資決定を行う見込み
持分シェア	当社シェアは30%を目標とし、2023年中に最終合意

*1: SAF、HVO、バイオナフサ

バイオ燃料事業 - 商業化プロジェクトに向けた資金調達

パートナー4社に対する新株式及び気候変動解決型CB*1の発行により、計約78億円を調達

バイオ燃料事業の商業化プロジェクト資金の一部を前倒し調達するとともに、ヘルスケア/その他事業の成長資金を確保



相応の規模に達する見込みの必要資金の一部を前倒し調達*5

*1: "Climate" Convertible Bond = 気候変動解決に向けたコミットメントを体現する資金調達として、気候をあるべき姿に「転換」という意思を込めた当社独自のネーミング
 *2: 2025/3/31迄にバイオ燃料商業プラントに係る資金拠出が確定した場合等は満期前日に強制転換、確定しなかった場合は2025/4/1に発行価格で買入
 *3: 当初転換価格に対して上限120%/下限80%の範囲内で、毎年3/31及び9/30 (初回は2023/9/30) に修正日の時価に修正 (東京証券取引所の定めるMSCB等には該当せず)
 *4: (株) 格付投資情報センターより、国際資本市場協会 (ICMA) の「グリーンボンド原則2021」及び環境省の「グリーンボンドガイドライン2022年版」に則った資金調達である旨のセカンドパーティーオピニオンを取得
 *5: 今回調達した資金では、今後確定していく最終的な当社必要資金拠出額を満たせない見込みであり、本最終投資決定までの間に、株式市場への影響にも配慮しながら、エクイティ性資金調達や本プロジェクトから期待されるキャッシュフローを活用した負債性資金調達等様々な資金調達手法を新たに検討、実施することで、当社必要資金拠出額の不足分を新たに調達していく予定

Copyright Euglena Co., Ltd. All rights reserved.

